

【区分2】見守りネットワークの構築

徘徊等SOSネットワークシステムの構築 (敦賀市)

基礎情報

実施地域	敦賀市全域
実施主体	敦賀市
所在地	敦賀市中央町2丁目1-1
代表者	敦賀市長 河瀬一治



活動を始めたきっかけ

敦賀市では「認知症ほっとけんまちつるが」をキャッチフレーズに、認知症対策を推進している。その取り組みの一つである敦賀市高齢者権利擁護連絡協議会「認知症にやさしいまちづくりプロジェクトチーム」の協議の中で、徘徊で行方不明になった方の対応の問題がクローズアップされた。

また、障がい者（児）の方が行方不明になり捜索する事例もあるため、認知症高齢者と障がい者（児）合わせて、関係機関等が連携し早期発見を目指す「敦賀市認知症高齢者及び障がい者徘徊等ネットワーク協議会」を設立し、早期発見へのネットワーク化等について協議を行った。

情報の早期連絡が第一であることから、関係機関（協力機関）へ行方不明者情報をメール配信し、早期発見を目指す連携連絡体制を構築した。

見守り活動の担い手

介護保険及び障害者関係事業所 医療機関
駅・バス・タクシー会社 郵便局 コンビニ
区長 民生委員 等

見守り対象者

認知症高齢者
障がい者及び障がい児

活動概要

- ・メールによる徘徊等SOSネットワーク（情報伝達）システムの構築
 - ①敦賀市認知症高齢者及び障がい者徘徊等ネットワーク協議会での協議
…情報連携の内容、方法、協力依頼機関等についての協議
 - ②情報連携システムの整備…システム構築の委託、システム機器の購入
 - ③ネットワーク協力機関への登録依頼及び登録
 - ④事前登録の周知及び登録
- ・徘徊等SOSネットワークシステムの運用
 - ①市民に対するシステムの周知
 - ②システム稼働の検証（徘徊模擬訓練の実施）
情報連携訓練・・・認知症高齢者が行方不明になったという想定で、警察、協力機関、市がシステムを用いての情報連携を確認
声かけ訓練・・・市内を徘徊者役が歩き、協力機関や市民が声かけし、対応を学ぶ

